

台湾少女漫画白書

王, 愿琦
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494504>

出版情報 : 比較社会文化研究. 10, pp.1-18, 2001-10-01. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン :
権利関係 :

台湾少女漫画白書

王 愿 琦

目 次

- 第一章 はじめに—台湾少女漫画の研究への歩み
- 第二章 台湾少女漫画の源流
- 第三章 台湾少女漫画に関するメディア
- 第四章 台湾少女漫画の代表的な漫画家およびその作品
- 第五章 台湾少女漫画の内容
- 第六章 終わりに—台湾少女漫画への期待

第一章 はじめに—台湾少女漫画の研究への歩み

第一節 研究目的

(一) 問題の提起

約10年前の1989年まで、日本の漫画があふれていた台湾漫画市場に一人の台湾少女漫画家—游素蘭があらわれた。彼女の作品『傾国怨伶』¹の登場はそれまでの台湾漫画に大きな変化をもたらした。『傾国怨伶』は游素蘭の漫画界における地位を不動のものにした長篇作品であり、台湾漫画の歴史と状況を一変させた大作である。²この作品の登場とともに、「素蘭ブーム」が起こったために、台湾国内の出版社も台湾本土の漫画家の創作を重視し始め、以後、台湾本土の漫画家が重用される風潮が生まれた。

この10年間の台湾の少女漫画は如何であろうか、いまではすでに成熟期にあると言えるのであろうか、台湾少女漫画は台湾女性の思想と生活を反映しているのであろうかという問題がすぐ想起される。

游素蘭が現れて10年後の現在、台湾少女漫画を評価すべき時期になったと思われる。

(二) 研究目的

台湾では女性に関することを研究する場合、伝統的な方法として、文学、あるいは映画作品など多様な材料を用いて研究される。だが現代社会で、上記の材料以外、少女漫画も重要な材料として、取り上げることができるであろう。よって、「台湾少女漫画白書」を今回の研究題目とし、台湾少女漫画を研究することにより、次のような目的を追求したいと思う。

1. 台湾少女漫画の源流の探究
2. 台湾少女漫画の現状の調査
3. 台湾少女漫画の内容の分析
4. 台湾少女漫画の特色の解明

その結果として台湾女性文化研究にすこしでも貢献ができれば、幸いに思う。

第二節 台湾少女漫画の定義

本題に入る前に、まず「台湾少女漫画白書」というテーマについて定義しなければならないだろう。

では、「台湾少女漫画」とは何であろうか。

本論文では台湾人の漫画家の創作による少女漫画を「台湾少女漫画」と定義することとする。

それでは、「少女漫画」とは何か。

少女向けの漫画作品が「少女漫画」と呼ばれることは当たり前であろうか。

実は「少女漫画」という言葉については、少女漫画がずっと流行っている台湾において固定的な定義がまだ見られない。よって、少女漫画の草分けの日本の論述を参考にし、少女漫画の源流と歴史を辿りながら、少女漫画の構成条件を明瞭にした上で、本論文のキーワードの「台湾少女漫画」という言葉を定義してみたいと思う。

(一) 日本における少女漫画の元祖

少女漫画の草分けの日本で少女漫画の元祖は誰であろうか。長谷邦夫氏は『ニッポン漫画家名鑑』で次のように語る。

「少女向け雑誌のマンガ、また少女を主人公にしたマンガ

1 游素蘭『傾国怨伶』、全4冊、台湾・大然出版社と華尚文化出版、1990年。

2 游素蘭のホームページ <http://www.kung.com.tw/ysl/>を参考とする。

の走りは、昭和3年、時事新報日曜付録「時事漫画」に連載された『とんだはね子』（北沢楽天）が最初と考えられる。……戦後の少女マンガのスタイルを決定づけたのは、昭和28年に「少女クラブ」に連載された『リボンの騎士』（手塚治虫）であろう。最大のヒット作『ベルサイユのばら』（池田理代子）にそれは完全に受け継がれている。³

また、清水勲の『漫画の歴史』の中の指摘を参考にしたい。

「……「コミック」という言葉が日本で使われだすのも昭和40年からである。……この「コミック」は昭和40年代に「劇画」という言葉を圧倒していき、昭和43年に創刊された『ビックコミック』（小学館）の人気なども影響して昭和50年代以降は、「コミック」がストーリー漫画の代名詞になっていく。……

昭和40年代末、池田理代子の『ベルサイユのばら』の大ヒットで少女漫画の分野が大衆に注目されだし、昭和50年代には「少女コミック」という言葉さえ生まれてくる。⁴

以上の長谷邦夫氏と清水勲氏の見解により、次のようなことがわかる。

1. 日本において、最初と考えられる少女漫画は『とんだはね子』であり、この作品は「少女向け雑誌のマンガ」、また「少女を主人公にしたマンガ」である。
2. 池田理代子の『ベルサイユのばら』の大ヒットで昭和50年代に「少女コミック」という言葉が生まれてくる前に、同じようなもの—「少女漫画」を叙述する時、「少女マンガ」、「少女劇画」、「少女のストーリー漫画」などの代名詞が見られる。即ち「少女マンガ」、「少女劇画」、「少女のストーリー漫画」などの名詞はすべて少女漫画を形容できる。

（二）日本における少女漫画の勃興期

次に、池田理代子以後の日本少女漫画の勃興期を辿っていくこととする。これについて、文芸春秋の『少女マンガ大全集』には以下のような解説があった。

「眼に星が輝くかわいい女の子—少女マンガには、この種の固定観念がまわりついている。確かに、勃興期の1950から60年代にかけては、恋に悩む、あるいは逆境で健気に

生きる少女を描いたマンガが主流だった。しかし、テーマはそれだけに限られていたわけでは決してない。手塚治虫、石ノ森章太郎など、いまでは大御所といわれる男性作家が中心となり、冒険ロマン、学園、恐怖、魔法などを主題にユニークなキャラクターを創造して少女の人気をさらっていたのである。只可惜むらくは、多くは小学生が主人公で、ストーリーもやや類型的な作品が多く、思春期の複雑な心理などを描いたものはまだまだ少なかった。⁶

同じような見解は荷宮和子氏の『少女マンガの愛のゆくえ』で見られる。

「少女漫画の黄金時代、と呼ばれた時期があった。「24年組」⁷と呼ばれた作家たち（つまり昭和24年前後に生まれ、それまでの「女子供のための」という枠を越えた新しい少女漫画を開拓したと言われている漫画家たち）が発表する作品は、「女子供」を超えて読者を引きつけた。少女漫画は、そして少女漫画家は持ち上げられた。⁸

以上の指摘によって、「花の24年組」の出現という少女漫画の黄金時期の前、つまり1950から60年代の少女漫画の勃興期以前には、少女漫画は「女子供のための」ものであった。また、恋に悩む、あるいは逆境で健気に生きる少女を描いたマンガが主流であったが、漫画の主題は多様であった。そして、当時の漫画家は男性作家が中心となり、少女漫画は女性作家の特許だけではなかったということがわかる。

（三）日本における少女漫画の黄金時代

前述のように「花の24年組」の出現によって少女漫画の歴史が変わった。多くの評論家は「24年組」の漫画の素晴らしさを評価する。例えば、荷宮和子氏の『少女マンガの愛のゆくえ』で次のような指摘があった。

「（24年組の）少女漫画は純文学小説を超える芸術性と、映画・演劇を超えるエンターティメント性を持っていると評価された。内容的にも、経済的にも、そのすごさは揺るがないと思われていた。⁹

「黄金時代の少女漫画はなんで面白かったんだろうか、についておさらいしてみたい。

まず時空間の変幻自在ぶりが面白かったんだ、と言える。

3 長谷邦夫の『ニッポン漫画家名鑑』（1994、データハウス）頁72を参考とする。

4 清水勲の『漫画の歴史』（1991、岩波書店）頁192-193を参考とする。

5 池田理代子：1947年生まれ。コミック作家。大阪府出身。昭和47年、『マーガレット』にフランス革命をテーマにした「ベルサイユのばら」を連載し大ヒットさせる。さらに、ロシア革命に材をとった「オルフェウスの窓」、ナポレオンをモデルにした「エロイカ」など、歴史を素材にした作品を次々と発表。コミックの領域を大きく広げた。

6 文芸春秋編の『少女マンガ大全集』（1988、東京・文芸春秋）頁747を参考とする。

7 「24組」の全称は「花の24年組」である。成員は萩尾望都・山岸涼子・大島弓子・竹宮恵子・木原敏江らである。1949年生まれの少女マンガ家たちが1960年代から70年代にかけて、一勢に高度な内容を持った長篇作品を次つぎと描き、少女マンガを改革した。（長谷邦夫の『ニッポン漫画家名鑑』頁356を参照。1994、株式会社データハウス）

8 荷宮和子氏の『少女マンガの愛のゆくえ』（1994年、株式会社光栄社）頁10-12を参照する。

9 同前。

……現代も中世も古代も、日本もアメリカもフランスも、地球も宇宙も異次元も。どこが舞台になるのかは、開いてみるまで分からなかった。なんでもあり、だったのだ。

雑誌全体もバラエティーに富んでいた。大人のドロドロから、たそがれ時の初恋までが一冊でOKだった。

セリフも凝っていた。量も多かった。吟味されたセリフから、作者の強い作家性が伝わってきた。……

好いた、惚れただけじゃなかった。恋愛、友情、親子、義理人情と、あらゆる感情を真正面から正攻法で描いていた。そんなもろもろを、少女たちにまともに伝えた唯一のメディアだった。……」¹⁰

そして、文芸春秋編の『少女マンガ大全集』でも次のように語った。

「彼女らは、伝奇、ファンタジー、SF、同性愛、歴史などといった、これまで殆ど扱われることのなかった世界を素材として少女マンガの枠に新たな広がりをもたせた。」¹¹

以上の指摘によって、日本における黄金期の少女漫画は、例えば物語の時代背景、主題の選択、主人公の心理描写などについて、既成の少女漫画の枠を破ったことにより、評判を得られたことが分かった。日本における少女漫画はここで成熟期に達したと言えるであろう。よって、この時期の少女漫画の特徴を取り上げ、さらに元祖と勃興期の少女漫画の特徴を参考にし、台湾少女漫画を定義してみたいと思う。

(四) 台湾少女漫画の定義

主題に戻り、「台湾少女漫画」とは何かについて考える。前述の指摘をまとめ、台湾少女漫画を次のように定義したいと思う。

1. 性別を問わず台湾人漫画家の創作する作品である。
2. 「少女向け」、また「少女を主人公にした」のものであり、「少女マンガ」、「少女劇画」、「少女のストーリー漫画」などの代名詞はすべて少女漫画を形容できる。
3. 物語の背景と時空間は変幻自在であり、現代も中世も古代も、台湾もアメリカもフランスも、地球も宇宙

も異次元も漫画の舞台になれる。

4. 題材は自由自在。青春の学園生活、英雄伝奇、空想科学、同性愛など何でも取材できる。
5. 内容は少女の恋愛、友情、親子の絆、情愛と、あらゆる感情を中心に物語を展開し、少女の心理を描くストーリーである。

以上の如く定義づけて、論述を行う。

第三節 先行研究の成果及び研究方法

(一) 先行研究

先行研究を調べてみると、漫画に関する評論の著作と修士論文はこの二、三年で急に増えてきている。これは台湾漫画がすでに一定の発展を遂げているからであろう。

台湾少女漫画に関する先行研究を次のように文献と論文に分け、検討したい。

1. 図書部分

もともと漫画単行本、漫画雑誌、「漫画教室」(漫画の書き方を教える本、例えば『名家漫画教室』¹²、『新漫画言語』¹³、『星少女漫画教室』¹⁴など)というような図書を置いていた台湾漫画市場は、近年漫画に関する評論という図書もよく見受けられるようになった。

台湾少女漫画に関する評論書は次のようである。(出版時間順)

- ① 洪徳麟 『台湾漫画40年初探』¹⁵
- ② 蒂芬妮 『漫画異言堂』¹⁶
- ③ 顔艾琳 『漫画鼻子』¹⁷
- ④ 蒂芬妮 『Tiffany 之漫画事件簿』¹⁸
- ⑤ 李衣雲 『私と漫画の同居物語』¹⁹
- ⑥ 洪徳麟 『風城台湾漫画50年』²⁰
- ⑦ 蒂芬妮 『神啊！請多給我一點漫画』²¹
- ⑧ 洪徳麟 『傑出漫画家—亞洲篇』²²
- ⑨ 国立歴史博物館 『台湾漫画史特展』²³

この中に、洪徳麟氏の『台湾漫画40年初探』と『風城台湾漫画50年』及び国立歴史博物館の『台湾漫画史特展』は

10 同前。

11 文芸春秋編の『少女マンガ大全集』(1988, 東京・文芸春秋) 頁747を参考とする。

12 鄭國興の『名家漫画教室』, 1987, 歡樂出版。

13 袁建洵の『新漫画言語』, 1992, 尖端出版。

14 王宜文, 李崇萍, 楊邵倫, 賴安, 羅玲合著の『星少女漫画教室』, 1998, 東立出版社。

15 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』, 1994, 台北・時報文化。

16 蒂芬妮の『漫画異言堂』, 1998, 台北・幼獅文化。

17 顔艾琳の『漫画鼻子』, 1998, 台北・探索文化。

18 蒂芬妮の『Tiffany 之漫画事件簿』, 1999, 台北・幼獅文化。

19 李衣雲の『私と漫画の同居物語』, 1999, 台北・新新聞文化出版。

20 洪徳麟の『風城台湾漫画50年』, 1999, 新竹・新竹市立文化中心。

21 蒂芬妮の『神啊！請多給我一點漫画』, 1999, 台北・幼獅文化。

22 洪徳麟の『傑出漫画家—亞洲篇』, 2000, 台北・雄獅圖書。

23 国立歴史博物館の『台湾漫画史特展』, 2000, 台北・国立歴史博物館。

台湾漫画の起源から現在までの台湾漫画史を筋道たてて紹介し、台湾漫画研究者の入門書だと言える。洪氏以外、近年にアピールする蒂芬妮、李衣雲などの漫画評論家の著作は殆ど日本漫画を中心に紹介と論述が行われ、日本漫画のガイドブックだと言えよう。これらの評論は台湾漫画の紹介は少なく、ましてや台湾少女漫画を中心に書いた著作は殆どないと言える。

一方、日本にはすでに台湾少女漫画に関する評論が見られる。日下翠氏の『漫画学のスズメ』²⁴と夏目房之介氏の『マンガ世界戦略』²⁵の中に、台湾少女漫画に関する評論は長くないが、台湾少女漫画の現状、動向、更に発展について言及しており、これは低迷の台湾少女漫画界にある強心剤を打つものと言えるであろう。

2. 論文部分

台湾の「国家図書館」の「全国博碩士論文摘要検索系統」²⁶を調べると、漫画に関する論文が16篇あり、殆どこの二、三年に発表された。その中で台湾少女漫画に関する論文は次のようである。

①黄雅芳 「台湾漫画文化工業初探」²⁷ (台湾漫画文化工業について初探)

批判性の政治経済学の視点で台湾漫画文化産業の歴史の筋道を解明するとともに現在の台湾漫画文化工業の動態を探求するものである。論文は少女漫画と直接の関連はないが、「現在の台湾漫画の動態」という点において良い参考になっている。

②王孝玲 「流竄在女子中学的情愛漫画——一個権力的解析」²⁸ (女子中学校にあふれる情愛漫画について——ある権力の解析)

ある女子中学校の学生たちを調査対象とし、彼女たちの漫画の閲読状況及びその好ましい原因を検討するものである。論文の中では女子中学生の好きな漫画は日本少女漫画のほうが多いと指摘され、台湾少女漫画に関する論述は少ない。

③魏延華 「高中女学生閲読少女愛情漫画與愛情態度之關聯」²⁹ (女子高校生における少女愛情漫画を閲読することとその愛情態度との関連)

台北県・市の八つの女子高校の学生をアンケートの対象とし、女子高校生の少女愛情漫画を閲読する状況とその愛情態度との関連についての研究である。

④頼怡伶 「台湾少女漫画發展與文本創作分析研究」³⁰ (台湾少女漫画の發展及び文本創作についての研究)

台湾少女漫画史の研究を着目する研究である。この20年の台湾少女漫画史についての説明は詳しいので参考になる。

(二) 研究方法

前述の調査により、台湾少女漫画についての先行研究は少ないと言えるであろう。台湾少女漫画に対する評価の公平性及びデータの正確さを求めるため、以上の著作と論文の業績を参考にする以外、台湾少女漫画をできるだけ集め、閲読する。更に、調査表・統計表を作ることによって、台湾少女漫画界の現状を解明し、作品中のセリフを解読することによって、台湾少女漫画に現れる台湾女性の様相を探求する目的を達成したいと思う。

第二章 台湾少女漫画の源流

台湾少女漫画を研究する前に、台湾少女漫画の源流を辿らなければならない。そして、台湾少女漫画の源流を探求する時に、台湾漫画に大きな影響を与える中国と日本の漫画の歴史も見逃がしてはいけないと思う。よって、本章は中国と日本漫画の起源を辿りながら、台湾漫画の起源に入るという方法で台湾少女漫画の起源と流れを明らかにしたい。

第一節 中国と日本における漫画の起源

李闡の『中国漫画史』³¹は中国の絵画史上の各類型の絵画が現代の漫画になぞらえる作品を選び、「漫画」という名詞は日本からの外来語ではないなどと主張する以外、畢克官の『中国漫画史話』³²及び第一章の叙述した各論文は基本的に「漫画」という言葉は中国にはなかった。」と認める。

畢克官の『中国漫画史話』の中では、次のように語る。「……、中国の古代には“漫画”という呼称はなかった。

24 日下翠の『漫画学のスズメ』, 2000, 東京・白帝社。

25 夏目房之介の『マンガ世界戦略』, 2001, 東京・小学館。

26 「全国博碩士論文摘要検索系統」のホームページ：<http://datas.ncl.edu.tw/>

27 黄雅芳の「台湾漫画文化工業初探」, 1997, 台湾国立師範大学社会教育学系研究所修士論文。

28 王孝玲の「流竄在女子中学的情愛漫画——一個権力的解析」, 1999, 台湾国立新竹師範学院・国民教育研究所修士論文。

29 魏延華の「高中女学生閲読少女愛情漫画與愛情態度之關聯」, 1999, 世新大学伝播研究所修士論文。

30 頼怡伶の「台湾少女漫画發展與文本創作分析研究」, 2000, 国立成功大学芸術研究所修士論文。

31 李闡の『中国漫画史』, 1978, 台北・世系出版。

32 畢克官著・落和茂訳の『中国漫画史話』, 1984, 東京・筑摩書房。

では、何時からわが国（中国）に“漫画”という呼称が現われたのか。それは1925年のことである。……こうしたいきさつで、豊子愷の作品は『文学週報』に連載され、“漫画”と名づけられた。豊子愷は後に当時を回顧して、「“漫画”の二字は確かに私の絵に初めて使われたものである。それは私自身が付けたのではなく、編者がこれを『子愷漫画』と名付けたのである」と述べている。……“漫画”という呼称が最も早く使われたのは日本においてである。日本徳川時代、葛飾北斎を中心とする八大漫画家が“随意画”という意味で、この呼称を用いたのが始まりといわれている。それ以来、日本ではずっとこの呼称が用いられていた。従って、“漫画”という呼称が中国で用いられるようになったのは、日本の影響によるものであるということは確かなことである。」³³

畢氏の指摘によって、「漫画」という言葉は1925年に中国に登場し、「漫画」という呼称が最も早く使われたのは日本においてであるということが分かった。

第二節 台湾漫画の発生期

（一）日本統治下の台湾漫画界

「漫画」という言葉が中国に登場した1925年には、台湾は日本に統治されていた。その時の台湾漫画界は如何であったかということは洪徳麟の『台湾漫画40年初探』の中で次のように語る。

「日本現代漫画が興ってから、台湾漫画家はたちまち日本の漫画舞台上に登場した。例えば陳光熙氏は1925年に『王様』の創刊号で漫画賞に入選し、賞金20圓（当時の警察の一ヶ月の給料に相当）をもらったが、当時の陳氏は只の中学生であった。『王様』は創刊する時の発行数が77万冊あり、台湾でも発行された。しかし、……当時、台湾人の漫画家は少なくないが、名をあげる人がいなかった。

1930年代に入り、子供漫画が日本で興り、陳定國、王朝基、陳光熙、洪晁明、許丙丁……などの台湾人漫画家が知らず知らずとその影響を受けることは当たり前であった。とはいえ、彼らは本土意識を強く持っているため、創作した作品はすべて台湾本土の地方色彩に富むものであった。」³⁴

以上の指摘によって、日本統治時代下の台湾ではすでに漫画の創作が始まっていたということがわかった。

（二）台湾光復直後の漫画情況

1945年台湾光復、さらに1949年国民党政権が中国から撤退した契機で、日本漫画に深く影響を受けた台湾漫画界は

大陸漫画家（1949年後来台の漫画家を指す）の加入のために、一層活発になっていた。当時の台湾漫画界は中国漫画と日本漫画の二つの思潮が、変化をもたらした。台湾漫画が日本漫画の影響を受けたことはあたりまえであり、大陸漫画家の来台が台湾漫画界に相当な貢献を与えたことと大陸の「連環図画」と「漫画」が台湾漫画にある創作風格と活気を注いだことも言うまでもない。「光復してから1950年代初期まで、漫画家は41人いる。台湾にきた大陸漫画家は殆ど風刺、ユーモア漫画を中心に創作し、例えば梁中銘、梁又銘、牛哥、張英超、青禾である。一方、台湾本土漫画家、例えば林玉山、陳進、陳定國、陳光熙、洪晁明などの作品は子供漫画、イラストのほうが多い。」³⁵と洪徳麟氏は当時の台湾漫画界についてこう指摘した。これが台湾光復直後の漫画情況であった。

第三節 台湾少女漫画の元祖

それでは、一体台湾少女漫画は何時登場したのだろうか。

この問題について、すべての先行研究は論じていなかった。台湾漫画研究の入門書の『台湾漫画40年初探』、『風城台湾漫画50年』、『台湾漫画史特展』を調べると、1960年代の4人漫画家の創作した作品は第一章の「台湾少女漫画」という定義に合わない、台湾少女漫画の元祖と言える。この4人は陳定國、錢夢龍、王朝基、許華良である。

次に、4人の特徴をそれぞれ述べてみよう。

（一）陳定國

陳定國は1923年に生まれ、新竹県新埔鎮出身。8歳の時から次々と各絵画のコンテストでチャンピオンを手に入っていた。陳氏はより高い技術を身につけるために更に第二次世界大戦の末期に日本の太平洋美術学校で学び、漫画に対するテクニックと観念はその時代の日本漫画一例えば田河水泡の『のらくろ二等兵』、島田啓三の『冒険ダン吉』、宮尾しげおの『団子申助漫遊記』、横山隆一の『フクちゃん』、長谷川町子の『サザエさん』などの作品から大きな影響を受けた。

「陳定國は地方戯曲文化を題材とし、ユニークな「鳳眼（切れ長ですっきりした目）美人」という漫画を創作した。これは日本漫画に見られない風格である。」³⁶と評価された。「1950年代末から1960年代初めにわたった五つの漫画雑誌に連載された陳氏の「呂四娘」、「孟麗君」、「花木蘭」、「白娘娘」、「西施」など百部ほどの作品はすべて台湾の「野台戯」（田舎で掛け小屋を造ってやる芝居）で上演され、それらの主人公の鳳眼美人特有の造形は少女漫画マニアを魅了し

33 畢克官著・落和茂訳の『中国漫画史話』（1984、東京・筑摩書房）頁86を参照する。

34 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』（1994、時報文化出版）頁35-37、43を参考とする。

35 同前、頁38-40を参考とする。

36 国立歴史博物館の『台湾漫画史特展』（2000、台北・国立歴史博物館）頁21を参照。

た。』³⁷

「台湾漫画大事50年表」³⁸によって、陳定國の1958年に『漫画大王』³⁹（後『児童版漫画週刊』に改名）に連載された「呂四娘」、及び1959年に同誌に連載された「孟麗君」は台湾少女漫画の元祖作品だと言えよう。

（二） 錢夢龍

「錢夢龍は陳定國の画風をまねつつも、少しずつ自らの独特な風格を出し、『模範少年』⁴⁰、『少年之友』⁴¹の人気漫画家であった。その作品の多くは「苦女蘇三」、「姐己」、「六世夫妻」といった既存の民間戯曲・伝説を主題としている。それらはどれも読者がよく知る物語であったが、「歌仔戲」（台湾民間戯曲）の大変流行っていた1960年代当時の台湾では多くのファンを持っていた。」⁴²

（三） 王朝基

「王朝基は小さい頃よく習字紙の上に漫画を画き、当時の田河水泡、田島啓三、倉金章介、坂本牙城などは彼の好む漫画家であった。

1960年、王氏は当時台湾の流行歌曲の「望春風」、「補破網」の曲名を漫画のテーマとし、社会写実の内容で多くの少女を魅了した。」⁴³

（四） 許華良

「4人目の許華良は自らの経験に基づく青少年時代の学校生活と人間関係を題材とし、「星淚濺荷花」と「冤家冤頭」などの作品を発表し、家庭問題から、社会問題、学校問題、さらに男女の間の微妙な心理をも描いた。読者層は小学生、中学生、大学生、工場の女工までも含んでいた。作品は殆ど恋愛物語であったが、繊細な筆致で描かれた青少年心理は文学の雰囲気を漂わせ、多くの少女を引きつけた。」⁴⁴

台湾では1955—1964が漫画週刊・雑誌の百家争鳴の年代であり、1960年前後、全台湾の雑誌は約20種類あった。前述の4人の少女漫画家（当時の台湾では「少女漫画家」という名詞がまだ現れていなかったけれども）はこのような背景で生み出されたと考えられる。そして、この4人の台湾少女漫画家の作品と特色をみれば、絵画のテクニックを除き、物語の取材と内容については陳定國と錢夢龍のすべて既存の民間物語を主題とすることから、王朝基と許華良

の当時の社会を背景とし、プロットを自ら創作することまでという過程と変化が見られる。これは台湾少女漫画が1960年代に始まると証明されるだけでなく、すでに大きな発展だと言えよう。

第四節 台湾漫画審査制度

このように、1955から1964は台湾漫画界の百家争鳴の年代であったが、よいことは長続きしないものである。「編印連環図画輔導辦法」（1962年11月）、「国立編訳館連環図画編印及送審辦法」（1967年1月）、「国立編訳館審査連環図画補充注意事項」（1967年6月）、「審定執照發給辦法」（1969年11月）、「國立編訳館連環図画送審程序」……など、次々と審査制度が発令され、これによって生まれたばかりの台湾漫画界は大きな打撃を受けた。このときもたらされた漫画文化断層は今思っても取り返しのつかないほど大きなものである。当時の台湾における漫画のレベルは決して日本に引けを取らないものであったが、「審査制度」のため、何人かの傑出した漫画家たちが創作をしばらく断念することになった。そのため、これ以後は多量の日本漫画がコピーされ、それから20年間、台湾漫画市場は日本漫画の天下になった。台湾の漫画界でようやく少女漫画家が登場したにもかかわらず、たちまち20年の空白期に陥ったのは、本当に残念としか言いようがない。

では次に、このような審査制度の後、いつから新世代の台湾少女漫画家が現れてきたのかという問題を考えてみよう。

第五節 新世代の台湾少女漫画

（一） 新世代の台湾少女漫画の起源

いつから新世代の台湾少女漫画家が現れてきたかという問題について、台湾における大手漫画出版社—東立出版社の林琨哲編集長は「台湾少女漫画は約1980年から始まり、創始者は高永だと言えるが、台湾漫画界に大きな影響を与えた第一人者は游素蘭である。」⁴⁵と指摘した。そして、同じく大手出版社—大然出版社のホームページに「大然出版社の前身—伊士曼出版社は1978年に創立され、1980年に国内

37 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』（1994、時報文化出版）頁59-63及び国立歴史博物館の『台湾漫画史特展』（2000、台北・国立歴史博物館）頁21を参考とする。

38 洪徳麟の『風城台湾漫画50年』（1999、新竹市立文中心出版）頁194を参照。

39 『漫画大王』、1958年創刊、大華出版社。

40 『模範少年』、1958年創刊、模範少年出版社。

41 『少年之友』、大約1958年創刊、模範少年出版社。

42 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』（1994、時報文化出版）頁93及び洪徳麟の『風城台湾漫画50年』（1999、新竹市立文中心出版）頁84を参照とする。

43 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』（1994、時報文化出版）頁95-97を参照とする。

44 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』（1994、時報文化出版）頁112-114及び洪徳麟の『風城台湾漫画50年』（1999、新竹市立文中心出版）頁90を参考とする。

45 2000年10月13日に報告者は電話とe-mailで東立出版社の林琨哲編集長をインタビューしたものの。

最初の少女漫画週刊『小咪漫画週刊』を発売し、1981年に国内初めての漫画新人賞「小咪漫画新人奨」を行い、高永、張静美、游素蘭などの漫画家を育成した。⁴⁶と載せている。

以上の指摘によって、現在の評論家たちは基本的に「新世代の台湾少女漫画は1980年頃から始まり、その初期には高永、游素蘭、張静美などの漫画家が台湾少女漫画界を率いた」と認めていることがわかる。

(二) 五つの雑誌が新世代の台湾少女漫画家を育む

以上の評論家の指摘したもの以外、1980年から1990年にわたり、台湾新世代少女漫画家を育んだ五つの漫画雑誌を見逃すことはできない。五つの漫画雑誌を表2-1のように整理する。

表2-1 新世代台湾少女漫画家を育む漫画雑誌

番号	雑誌名称	発行時間	発行出版社
1	『小咪漫画』週刊	1980年—1982年	伊士曼出版
2	『歡樂漫画』半月刊	1985年10月—1988年5月	時報文化出版
3	『漢堡漫画』月刊	1989年2月—1992年2月	漢堡雜誌社
4	『星期漫画』週刊	1989年2月—1990年9月	時報文化出版
5	『周末漫画』週刊	1989年9月—1990年3月	華尚文化出版

この五つの漫画雑誌は、『小咪漫画』週刊は当時の人気日本少女漫画家、例えば竹宮恵子、萩尾望都、池田理代子、山岸涼子などの作品を台湾読者に紹介し、さらに「小咪漫画新人奨」を行い、現在の人気漫画家の高永、張静美、游素蘭を発掘した。『歡樂漫画』半月刊、『漢堡漫画』月刊、『星期漫画』週刊は作品がまだ未熟であった高永、張静美、游素蘭、木笛、歐碧鳳などの作品に発表舞台を提供した。そして、『周末漫画』週刊は游素蘭の「傾國怨伶」で少女漫画のブームをもたらし、15期から高永の「梵天變」が陣容に加わり、二人の台湾少女漫画界の不動の地位をもたらした。よって、新世代の台湾少女漫画家を育んだ主要な発表誌は以上の五つの漫画雑誌に間違いないと言えよう。

(三) 新世代台湾少女漫画と日本少女漫画の淵源

前述の『小咪漫画』週刊は当時の人気日本少女漫画家の作品を台湾読者に紹介していたので、それ以後の台湾少女漫画は当時の日本少女漫画に大きな影響を受けていたと言えよう。台湾新世代少女漫画を閲読・資料収集する過程中、台湾少女漫画家の好む漫画家は表2-2のように、日本の漫画家が99%を占めるといふことに気づいた。

表2-2 台湾少女漫画家の好きな漫画家⁴⁷

番号	台湾少女漫画家	好きな漫画家
1	高永	萩尾望都、安彦良和、池上遼一
2	游素蘭	松本零士、萩尾望都、佐々木淳子、宮脇明子、張静美
3	張静美	内田善美、大和和紀、あだち充
4	張籬	大友克洋、萩尾望都、上條淳士、阿保美代子、山岸涼子
5	GRACE	ひかわきょうこ、吉住渉、樹なつみ、山内直実、森丘茉莉
6	沈蓮芳	高口里純、西炯子、清水玲子
7	呉思璇	高河弓、道原かつみ、岡崎武士、永野護
8	木笛	宮脇明子、惣領冬実、谷地恵美子、早川今日子
9	林欣穎	惣領冬実、秋里和国、北川翔、田村由美、上田美和
10	頼安	池田理代子
11	風杏鈴	ひかわきょうこ、荒木飛呂彦、浦沢明子、池田さとみ
12	林玉琴	成田美名子、清水玲子、上條淳士
13	劉曉蓓	多田由美、沢井健、上條淳士、浦沢直樹

表2-2によって、萩尾望都、惣領冬実、宮脇明子、上條淳士などは人気のある漫画家である。一方、前述した台湾元祖少女漫画家の陳定国などの好む日本漫画家の名前、例えば田島啓三、田河水泡、倉金章介、坂本牙城、宮尾しげお、横山隆一、長谷川町子はすべて見られないようになった。よって、『小咪漫画』週刊が当時の人気日本少女漫画家の作品を台湾読者に紹介したことは台湾少女漫画に深い影響を与えたということが証明された。

「台湾の少女漫画家たちは小さい頃から日本漫画と接触し、自然に自らの好きな日本漫画家を崇拜し、さらにこれらの漫画家を模倣する対象とした。このような過程は台湾の本土少女漫画家において、前進する重要な段階だと言える。よって、台湾本土の少女漫画家は自らの技術が成熟するまで、作品の中によく日本漫画家の影が見られると思う。つまり、台湾少女漫画家たちはずっと日本漫画と接触することで、日本漫画の流派とテクニックを熟知し、知らず知らずに日本漫画の影響を深く受けた。」⁴⁸と、東立出版社の林琨哲編集長はこのことについて結論を下した。

第六節 まとめ

一連の台湾少女漫画の歴史を辿ってから、台湾少女漫画の起源と流れを説明した。台湾少女漫画の時代区分については、今までの先行研究がすべて見られないので、以上の論述を次のような時代区分で台湾少女漫画の源流をまとめたいと思う。

(一) 発生期 (1950—1965)

台湾漫画家は中国漫画と日本漫画の二つの思潮下、自らの創作が始まった。1955から1964が漫画週刊・雑誌の百家争鳴の年代であり、1960年前後、全台湾の雑誌は約20種類

46 大然出版社のホームページ：<http://www.daran.com.tw/>

47 資料出所：各漫画単行本から集める。

48 2000年10月13日に電話とe-mailで東立出版社の林琨哲編集長にインタビューしたものの。

あった。陳定国、銭夢龍、王朝基、許華良の4人の少女漫画家がこのような背景で生み出された、最初の台湾少女漫画家だと言えよう。

(二) 中断期 (1965—1980)

1960年代中期の「審査制度」のため、何人かの傑出した漫画家たちが創作をしばらく断念することになった。そのため、これ以後は多量の日本漫画がコピーされ、それから20年間、台湾漫画市場は日本漫画の天下になった。

(三) 再萌芽期 (1980—1990)

1980年から1990年に五つの雑誌が新世代の台湾少女漫画家を育てた。『小咪漫画』週刊は当時の人気日本少女漫画家、例えば竹宮恵子、萩尾望都、池田理代子、山岸涼子などの作品を台湾読者に紹介し、さらに「小咪漫画新人奨」を行い、現在の人気漫画家の高永、張静美、游素蘭を発掘した。『歡樂漫画』半月刊、『漢堡漫画』月刊、『星期漫画』週刊、『周末漫画』週刊は作品がまだ成熟していない当時の台湾少女漫画の作品に発表舞台を提供した。1990年游素蘭の「傾国怨伶」が少女漫画のブームをもたらし、いよいよ台湾少女漫画の成熟期を迎えることとなった。

(四) 成熟期 (1990—)

1990年『傾国怨伶』の登場はそれまでの台湾漫画に大きな変化をもたらした。この作品の登場とともに、「素蘭ブーム」が起こったために、台湾国内の出版社も台湾本土の漫画家の創作を重視し始め、以後、台湾本土の漫画家が重用される風潮が生まれた。

第三章 台湾少女漫画に関するメディア

第二章の「台湾少女漫画の源流」を明らかにしてから、1960年代中期の審査制度前の元祖少女漫画家とその作品は、台湾少女漫画界でまだ位置づけられていないということが分かった。その原因は1. 1980年代以前の台湾少女漫画は陳定国の作品以外、銭夢龍、王朝基、許華良らは少女漫画に当てはまる作品が少ない、2. 「陳定国は40年の漫画生涯で100部以上の漫画を画いたが、彼の作品は大体民話を材料とし、古典文学の精髓を素晴らしく描いていたけれど、作品のプロットが読者がよく知っているものであったため、注目の焦点にならなかった。」⁴⁹ 3. 1960年代中期の「漫画審査制度」以後、台湾漫画市場は日本漫画の天下になったために、今の若い世代は審査制度前の作品と接触す

るチャンスがないと考えられるのであろう。

つまり、現在の評論家たちは基本的に「新世代の台湾少女漫画は1980年から始まり、その初期には高永、游素蘭、張静美などの漫画家が台湾少女漫画界を率いた」ということを認め、若い世代の人たちも現在の人気漫画家しか知らない。よって、これからの章節では1980年後の新世代の台湾少女漫画を焦点とし、論述を行いたい。なお、各章節で提起する「少女漫画」もすべて1980年後の漫画作品を指すこととする。

では、まず台湾少女漫画に関するメディアから論述を行っていきたいと思う。

第一節 台湾少女漫画雑誌

台湾少女漫画は大別して「漫画雑誌」と「漫画単行本」の二つの形態で読者を魅了している。「漫画雑誌」と「漫画単行本」の間は切っても切れない関係と言える。まず漫画雑誌について説明する。

(一) 漫画雑誌の市場

漫画雑誌を調査したところ、台湾漫画市場の少女漫画雑誌には次の8種類の雑誌があるということが分かった。

表3—1 台湾漫画市場の少女漫画雑誌⁵⁰

1. 『花與夢』双週刊	日本白泉社の『花とゆめ』が大然出版社に授權
2. 『天使』少女漫画月刊	日本集英社の『りぼん』が大然出版社に授權
3. 『公主』双週刊	日本小学館の『少女コミック』が大然出版社に授權
4. 『Girl's FRIEND』少女・朋友月刊	日本講談社の『週刊少女フレンド』が東立出版社に授權
5. 『Shine 閃亮』少女漫画月刊	日本角川書店の『あすか』が東立出版社に授權
6. 『焦点』少女漫画月刊	日本白泉社の『LaLa』が東立出版社に授權
7. 『開心少女』月刊	日本秋田書店の『プリンセス』が長鴻出版社に授權
8. 『美少女』月刊	日本講談社の『少女クラブ』が長鴻出版社に授權

表3—1によって、八つの雑誌は全部日本の出版社の提携するものである。残念ながら、これが台湾漫画市場の現状である。長谷邦夫の『ニッポン漫画名鑑』の中で、「日本マンガの海外進出が盛んになりつつあるが、東南アジア地域ではもっぱら海賊版が出回っているのが常識であった。しかし、ここ数年、台湾を中心に改善の動きが出た。現在、台湾の大手出版社は日本のマンガ出版社と提携、わずかな

49 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』(1994, 時報文化出版) 頁80を参考とする

50 資料出所: 『花與夢』双週刊(2000年9月号, 大然出版社), 『天使少女漫画』月刊(2000年10月号, 大然出版社), 『公主』双週刊(2000年9月号, 大然出版社), 『Girl's FRIEND』月刊(2000年9月号, 東立出版社), 『Shine 閃亮少女漫画』月刊(2000年9月号, 東立出版社), 『焦点』少女漫画月刊(2000年9月号, 東立出版社), 『開心少女』月刊(2000年9月号, 長鴻出版社), 『美少女』月刊(2000年9月号, 長鴻出版社) 及び長谷邦夫の『ニッポン漫画家名鑑』(1994, データハウス) 頁286, 長谷邦夫の『ニッポン漫画雑誌名鑑』(1995, データハウス) 頁9-10, 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』(1994, 時報文化出版) 頁188を参考とする。

がらでも版権料を支払うようになってきた。』⁵¹ という指摘は1992年以来、台湾の大手漫画出版社が次から次へと日本のマンガ出版社と契約を結んできたありさまを物語っている。

主題に戻って、台湾本土の少女漫画は一体どこの雑誌で発表されるのだろうか。調べてみると、発表される場所は僅かに次のようなものだけである。

表3-2 台湾本土少女漫画家の作品の発表雑誌

出版社	雑誌	形式	定価	授 権	内 容
東立	『Girl's FRIEND』	月刊	70円	講談社 『週刊少女フレンド』	日本の漫画作品を主とし、台湾漫画は1-2篇だけである。
	『焦 点』	月刊	70円	白泉社 『LaLa』	同 上
	『Shine 閃亮』	月刊	70円	角川書店 『あすか』	同 上
長鴻	『開心少女』	月刊	70円	秋田書店 『プリンセス』	同 上
	『美少女』	月刊	90円	講談社 『少女クラブ』	同 上
大然	『天 使』	月刊	90円	集英社 『りぼん』	同 上
	『公 主』	双週刊	70円	小学館 『少女コミック』	日本の漫画作品を主とし、台湾漫画は1-2篇だけであり、韓国の作品も見られる。

さて、日本の漫画研究家がよく提起する『星少女』漫画月刊については、すでに2000年5月に停刊した。東立出版社の出版する『星少女』は1992年7月に創刊され、全台湾で唯一、最初の100%台湾本土少女漫画家の発表する舞台であり、高い評判を受けた。「だが『星少女』月刊は毎号の発行量が只5000冊であり、長い間に苦心惨憺で経営したが、販売量がやはり伸びず、しぶしぶながら停刊された。……これから、台湾本土少女漫画家の作品は日本翻訳漫画の雑誌中に発表される。このような方式は一定の発行量を維持でき、なおかつ台湾少女漫画家を育成することにも役立てられる。」⁵² と東立出版社の林琨哲編集長は語った。

一方、2001年の年初、東立出版社はまた『瑪格麗特』少女漫画半月刊という雑誌を創刊し、今回は日本の集英社に提携された……。

日本少女漫画と台湾少女漫画の明暗は以上のことからはっきり見ることができる。

(二) 雑誌からすすめていくこと

1. 単行本の発行

漫画作品は雑誌で連載してから、一定の量に達すると、漫画家の個人作品の単行本を発行することができ、このような発行の形態も日本と同じである。台湾少女漫画の最初

の単行本について、先行研究の頼怡伶の「台湾少女漫画発展與文本創作分析研究」は、張静美の『靈香園伝奇』が台湾少女漫画における最初の単行本であると指摘⁵³する。『靈香園伝奇』は全6冊、『小咪漫画』雑誌で連載された後、1983年に出版された。この作品は游素蘭の『傾國怨伶』のようにたちまちベストセラーとなることはできなかったが、台湾少女漫画史上に画期的な意義を持つと言えよう。

2. 「漫画新人賞」という選考を行うこと

雑誌社は人材を発掘する使命感を持ち、よく「漫画新人賞」という選考を行い、漫画界の新星を育成する。洪徳麟氏はこのことについて、「……日本の漫画雑誌と提携するばかりの台湾漫画界で、台湾漫画出版業者は日本漫画に依頼しすぎないように、自らの漫画家のスタッフを持たなければならぬと意識した。大然出版社と東立出版社は漫画工作室を成立し、漫画家と契約を定め、両方の権益を保証する。更に「漫画新人賞」を行い、人材を発掘する。」⁵⁴ と指摘した。

前述のように、台湾で最初に漫画新人賞の選考を行ったのは1981年に伊士曼出版社（大然出版社の前身）の『小咪漫画周刊』から行った小咪漫画新人賞であった。現在では、東立出版社が毎年夏定期に、及び大然出版社が不定期に新人賞の選考を行う。

表3-3は漫画新人賞から発掘される有名な台湾少女漫画家である。

表3-3 漫画新人賞から発掘される台湾少女漫画家⁵⁵

番号	台湾少女漫画家	新 人 賞
1	高 永	「罪と罰」で小咪漫画第三回漫画新人奨第三位 「向西」で小咪漫画第四回漫画新人奨第二位 「声声慢」で小咪漫画第五回漫画新人奨第一位
2	游 素 蘭	「夜」で小咪漫画第四回漫画新人奨 「和平」で小咪漫画第五回漫画新人奨
3	張 静 美	小咪漫画漫画新人奨
4	伊 歆	「緑扣」で1993年「公主新人奨」
5	欧 碧 鳳	東立漫画「新人奨」第一回第一位
6	趙 誠 瑞	東立漫画「新人奨」第二回少女組第三位
7	蘇 晋 儀	東立漫画「新人奨」第二回少女組佳作
8	余 承 蓉	東立漫画「新人奨」第五回少女組第三位

第二節 台湾少女漫画の単行本

(一) 今まで発行された台湾少女漫画の単行本について

各出版社の目録、ホームページ、雑誌及び単行本を調べ、さらに五つの出版社と一々確認してから、いままで発行された台湾少女漫画の単行本は表3-4の通りであった。

51 長谷邦夫の『ニッポン漫画家名鑑』（1994、データハウス）頁286を参照。

52 2000年10月17日に報告者はe-mailで東立出版社の林琨哲編集長をインタビューしたもの。

53 頼怡伶の「台湾少女漫画発展與文本創作分析研究」（2000、国立成功大学芸術研究所修士論文）頁63を参照。

54 洪徳麟の『台湾漫画40年初探』（1994、時報文化出版）頁190を参考とする。

55 資料出所：各漫画単行本。

表 3-4 台湾少女漫画について漫画家と作品

表 3-4-1 東立出版社⁵⁶
星少女系列

編号	漫画家	作 品
1	彭雪芬	咖啡不加糖①-②, GOGO 台北, 秋天的情書
2	趙誠瑞	奇夢狂想曲
3	羅玲	戲水蝶衣①-③, 新世紀蒙娜麗莎①-②
4	欧碧鳳	幻玉龍女①-②, 紫釵記, 珍珠怨①-③
5	吳思璇	愛凡①-③
6	木笛	貝比日記①-⑤, 愛上300歲的女孩①-③
7	王宜文	烽火情緣①-④, 賭國風雲錄, 紙水晶
8	侯采佑	細疆曲①②, 斷腕公主①-③
9	李韻芬	夏日的惡作劇, 純白的時間
10	李崇萍	天堂城市①-④, 搖滾狂潮①-⑧, 搖滾狂潮筆記書
11	林欣穎	銀色奇蹟, 雅房分租, 郵購新娘, 初戀MALISA①-⑨
12	賴安	落花①-③, 薔薇豪情①-③, 愛・神話, 純愛手記, 戀影天使①-⑦
13	愛彌兒	斷袖
14	任紅	男樣①-④, 天使愛魔鬼
15	仙貝	荊棘公主, 木乃伊之歌, 紅粉綠袖子①-②
16	蘇晉儀	暗夜殺機
17	張離	玉狐①-②
18	GRACE	曼哈頓物語, 超新星19①-②, 漫畫情人夢①-③
19	沈蓮芳	戀愛遊戲ABC, 一輩子守著妳①-②, 月光
20	黃佳莉	月桂神話, TOP TWINZ 雙星①-②, 仲夏夜之夢
21	風杏鈴	小綠, 日沒聖印
22	艾力卡	沒有真的世界①-③
23	楊邵倫	愛是億萬伏特①-③
24	咎井淳	鏡子的另一邊①-②
25	余承蓉	伊甸之月①-②
漫画家は計25名。作品は計54部, 共119冊。		

* 資料は2000年12月末現在

表 3-4-2 大然出版社⁵⁷
少女館・天使館・精緻漫画創作系列

編号	漫画家	作 品
1	游素蘭	幻象之女, 天蠟魔法, 傾國怨伶①-④, 傾國怨伶同人誌①-②, 火王①-③, 「唐宮夢」彩色画集
2	高永	霍夫林漫画占星講座・恋愛篇, 梵天變①-③, 恋愛的季節①-③, 男生禁止步, 「原罪」彩色画集
3	張静美	靈香園伝奇, 可家少爺①-④, 奇夢神話①-③, 代戰天使①-⑤, 「天使花園」画冊
4	林玉琴	天魔變奏曲①-③, 愛情拋物線①-②, 虛幻彼方①-⑥
5	劉曉蒨	恋人迷宮①-②, 心の罪①-⑤, 微熱蜜語149℃①-④, 奈何花
6	伊歡	宣和恋①-⑤, 惑星恋人, 碧海精靈①-⑨, 聖月之印①-②
7	林青慧	玻璃鞋之約①-②, 難纏俏姑娘
8	曉君	隨風起飛①-③, 魔法600秒①-⑤, 魔法快遞321①-⑦
9	黃唐	魔幻時代①-②
10	文珊	愛殺①-②
漫画家は計10名。作品は計34部, 共107冊。		

* 資料は2000年12月末現在

表 3-4-3 長鴻出版社⁵⁸
開心少女創作系列

編号	漫画家	作 品
1	游素蘭	鋼鐵天使①-②
2	高永	星座刑事①-⑫
3	鄭玉兒	Kiss 倒數讀秒①-③, 化身天使①-③, 我愛麻煩, 迷狐嬌々女, 銀河彼端①-④
4	張静美	青春小鳥①-⑥
5	林代萍	死神之吻, 巧魔子
6	吳思璇	情聚天涯①-②, 佳人接招①-②
7	陳苓	星河奇緣, 愛情写真派
8	岑小京	情侶娃娃, 淘氣精靈
9	吳柔萱	天使躍界
漫画家は計9名。作品は計17部, 共43冊。		

* 資料は2000年12月末現在

表 3-4-4 尖端出版社⁵⁹

編号	漫画家	作 品
1	游素蘭	天使迷夢①-②, 「火王」複製原画自選集, 「擁我入夢」画冊, 夏茵王, 七色光
2	呂相儒	嫁情曲①-⑥
漫画家は計2名。作品は計6部, 共12冊。		

* 資料は2000年12月末現在

表 3-4-5 時報出版社⁶⁰

編号	漫画家	作 品
1	高永	悲傷的茱麗葉・真情黛安娜①-③
2	張静美	杜鵑・杜鵑, 啞妻, 我心飛舞
3	袁燕華	心動, 邂逅
4	水瓶鯨魚	我愛你
漫画家は計4名。作品は計8部, 共10冊。		

* 資料は2000年12月末現在

表 3-4 により, 20年間に台湾少女漫画界では約43名の少女漫画家が生まれた, そして, 約119部, 291冊の作品が台湾少女漫画の世界を豊かにしてきたことが分かった。

少女漫画の二大出版社である東立出版社と大然出版社はともに漫画家スタッフの養成を目指しており, 彼らの作品は自社で出版することが多いようである。東立出版社の陣容は王宜文, 侯采佑, 李崇萍, 林欣穎, 賴安, 沈蓮芳, 黃佳莉, 風杏鈴, 楊邵倫などで, 大然出版社のほうは林玉琴, 劉曉蒨, 伊歡, 曉君などがいる。高永, 游素蘭, 張静美などはすでに人気のある漫画家なので各出版社に作品が見られる。

(二) 単行本の市場

前述のように, 100%台湾少女漫画作品を発表する雑誌

56 出版品は東立出版社少女漫画編輯部の元編集長張君媽氏に確認した。

57 出版品は大然出版社の主編郭葵葵氏に確認した。

58 出版品は長鴻出版社の執行主編張宴如氏に確認した。

59 出版品は尖端出版社編輯部邱元鴻氏に確認した。

60 出版品は時報出版社編輯部主編郭燕鳳氏に確認した。

の『星少女』月刊は販売量の減少で停刊してしまった。台湾少女漫画の単行本の市場は如何であるかという問題について、東立出版社の林琨哲編集長は「単行本の市場について、新世代台湾少女漫画界の発展歴史は僅か10年ほどであり、さらに台湾漫画の市場はやはり日本の漫画が主流を占め、台湾本土の漫画家の創作空間が圧縮されるので、台湾少女漫画の出版量は多くはない。現在、毎月店頭に並ぶ台湾少女漫画と日本少女漫画の比率は約1：20であり、販売量は約1：4である。」⁶¹と指摘した。

もし、2000年8月号の『T-AX 勁動画雑誌』の中に載せている「漫画出版情報」を調査の対象⁶²とすると、当月に発行する漫画単行本は計230冊ほどあり、その中に、少女漫画は約70冊ある。そして、その70冊の少女漫画の中に、日本少女漫画は64冊で、少女漫画市場の91%を占め、台湾少女漫画は僅か6冊で、9%を占めるということがわかった。以上の統計数字によって、台湾少女漫画市場の主流はやはり日本少女漫画であると証明された。

第三節 まとめ

本章では、「漫画雑誌」と「漫画単行本」の二つのメディアの形態で台湾少女漫画の現状を分析した。

漫画雑誌について、現在の台湾の漫画市場にあふれる少女漫画雑誌は8種類あるが、台湾少女漫画を発表する場所には実際にはわずかにこれらの雑誌中の一部分での掲載にすぎない。さらに、全台湾で唯一の100%台湾本土少女漫画家の発表する場所の『星少女』漫画月刊は売り上げが伸びず、すでに2000年5月に停刊した。

幸いに、漫画単行本については、20年間に約43名の少女漫画家が生まれ、約119部、291冊の作品が台湾少女漫画の世界を豊かにしてきた。しかし、台湾漫画の市場はやはり日本の漫画が主流を占め、台湾少女漫画の危機はまだ続いている。

第四章 台湾少女漫画の代表的な漫画家およびその作品

次に、新世代の台湾少女漫画を一層理解するために、第三章で叙述した44名の少女漫画家の中の代表的な作家を選び、さらにその優れた作品を紹介したい。

夏目房之介は『マンガはなぜ面白いのか』⁶³で、「マンガを

読んで面白いと感じるとき、たんに話やテーマが優れているからそう感じるわけではない。そのマンガが、どんな線で、どんな風に描かれているか。どんなコマで構成されているか。マンガの絵やコマのもつ表現のしくみの中で「面白さ」を感じているのだ。」と指摘した。確かに、漫画の評論は、とても深い学問であり、また各人によって見方はそれぞれ異なると思う。よって、本章の第一節で、専門家の意見を参考にし、台湾少女漫画の代表的な作家を取り上げ、その面白さ（長所）の原因を述べてみる。第二節で、台湾少女漫画を閲読することによって、代表的な漫画家の作品を紹介していきたいと思う。

第一節 台湾少女漫画の代表的な漫画家

(一) 先行研究

台湾漫画研究の第一人者である洪徳麟氏の『傑出漫画家—亞洲篇』⁶⁴の中では台湾の傑出漫画家について、陳海虹(台湾武俠漫画の鼻祖)、葉宏甲(台湾初めての漫画アイドルの創作者)、陳定國(「鳳眼美人」を独創した少女漫画家)、牛哥(漫画生涯60年にわたる大家)、劉興欽(台湾の郷土風漫画の開拓者)、蔡志忠(伝奇作品の台湾漫画家)、鄭問(東瀛を揺り動かす水墨画風の漫画家)などの漫画家が取り上げられるが、新世代の少女漫画家たちの名前は殆ど見られない。ほかの『台湾漫画40年初探』、『風城台湾漫画50年』、『台湾漫画史特展』などの著作は張静美、游素蘭、高永、李崇萍、林欣穎などの作家が紹介される。近年にアピールした新世代の漫画評論家である蒂芬妮はその論述の『Tiffany之漫画事件簿』、『漫画異言堂』、『神啊！請多給我一點漫画』の中で、游素蘭、高永、李崇萍、賴安、伊歡の5人を「台湾少女漫画の天王・天后」という愛称をつけ、それらの作品に高い評価を与えるほかに、王宜文、侯采佑、呂相儒の作品をも取り上げたことがある。

次に、出版社の意見を参考にしたい。

東立出版社少女漫画部の張君嫣元編集長は「代表的な作家は木笛、王宜文、李崇萍、賴安、侯采佑、黃佳莉、游素蘭、高永、張静美、林玉琴(林小呆)など10人だと言える。」⁶⁵と、東立出版社の編集長である林琨哲は「台湾少女漫画家の平均年齢は30歳ぐらいで、代表的な漫画家は賴安、李崇萍、游素蘭、高永だと言える。」⁶⁶と指摘した。

以上の指摘を参考に、台湾少女漫画について、代表的な作家は少女漫画の先輩である游素蘭、高永、張静美と東立

61 2000年10月17日にe-mailで東立出版社の林琨哲編集長にインタビューしたもの。

62 『T-AX 勁動画雑誌』月刊(勁動画雑誌社出版)頁99-102を参照する。

63 夏目房之介の『マンガはなぜ面白いのか』(1997,東京・日本放送出版協会)頁3を参照。

64 洪徳麟の『傑出漫画家—亞洲篇』(2000,台北・雄獅出版)頁6-7を参考とする。

65 2000年7月19日に電話で東立出版社の元編集長張君嫣にインタビューしたもの。

66 2000年10月13日に電話とe-mailで東立出版社の林琨哲編集長にインタビューしたもの。

出版社の星少女スタッフの李崇萍、木笛、候采佑、王宜文、林玉琴(林小呆)、頼安、林欣穎と大然出版社の少女館スタッフの伊歆、曉君、劉曉蒨などの13人を取り上げたい。その代表たる理由を次に述べてみよう。

(二) 台湾の代表的な少女漫画家とその代表たる理由

台湾の代表的な少女漫画家とその代表たる理由は以下のようである。

表4-1 台湾少女漫画の代表的な作家とその代表たる理由

出版社	代表的な漫画家	特徴
東立星少女スタッフ	1 游素蘭	台湾少女漫画界の生態を変え、台湾少女漫画に最も深い影響をもたらした漫画家である。優美な画風、完璧ほどの人物造形と複雑なプロットで少女マニアの心を引きつける。
	2 高永	台湾少女漫画家の先輩であり、現在台湾少女漫画界で唯一の男性漫画家である。作品は伝統的な愛情物語のパターンから抜け出し、独特な題材、優美な文辞、深い哲理に富むプロット及び美しい人物造形で読者の心を魅了する。
	3 張静美	台湾少女漫画家の大先輩であり、その作品の『靈香園伝奇』は台湾少女漫画の最初の単行本である。繊細な筆致で思いやりなどの人間性に富む作品を創作し、すべての作品は後味がいい。
	4 李崇萍	伝統的なキャンパス色彩の漫画作品から抜けだし、台湾のキャリア・ウーマンが理想を抱え、目標を求めるといった内容及びバンドなどの題材で注目される。極めて格好がいい人物造形で人気を集める。
	5 木笛	清新の筆致と優雅な画風で世間の暖かい感情の面を特写することは木笛の作品の特徴である。
	6 候采佑	構図のテクニックはまだ上手ではないが、作品ごとに歴史背景を深く研究し、それがストーリーの中に巧みに組み込まれ、うまく表現されている。特に中国画画風で男女の主人公の感情をうまく映し出していることが読者を感動させる。
	7 王宜文	作品中に表わされた欧州の歴史、人物、服装の考証には王宜文の努力が見られる。台湾漫画界における華麗な「欧州宮廷画風」の第一人者と言えよう。
	8 頼安	優美な人物造形、通俗的な台詞、大衆的な題材で、学生読者たちの心を捕らえることができる。
	9 林欣穎	魅力的な女主人公、現代感に富む台詞、多様な新世代の愛情物語を作る林欣穎は本人が美人なので、人気アップ。
大然少女館スタッフ	10 伊歆	すきなく構成されたプロット、斬新な題材、感動的なストーリー…伊歆の作品はいつも高いレベルを維持している。
	11 林玉琴	作品は線条が優雅、人物造形が耽美、リズムが明快なので、人気のある漫画家である。
	12 曉君	魔法を主題として創作されるシリーズは人物造形が活発で、内容が台湾社会や学園の中に潜んでいる危機と問題を反映するので、若い読者の気持ちを捉えることができる。
	13 劉曉蒨	明確な主題、首尾一貫したプロット、清新な画風で読みやすい作品を創作する劉曉蒨は台湾漫画界の未来のスター。

第二節 代表的な漫画家の重要な作品の紹介

(一) 游素蘭

『傾国怨伶』(全4冊, 1990—1991, 大然出版社)は游素蘭の漫画界における地位を固めた長篇作品であり、台湾漫画の歴史を塗り替える大作であった。「非業の死をとげた王

女の「李盈」とその生まれ変わりの現代女性の「詠倩」の物語であるが、そのどちらにも彼女を守る美少年(美青年)がついているという物語。王女は何故父王に殺されねばならなかったのか? 王女の怨みを解くため、「詠倩」は謎を探ろうとするが、次々と危機が襲う。』⁶⁷

その続編に当たる『火王』(全13冊, 1992—1997, 大然出版社)は台湾少女漫画界で最も長い作品であり、前作をうわまわるものである。

(二) 高永

高永の最も注目される作品は『梵天変』と『星座刑事』であり、大陸でも多く出版されている。

『梵天変』(全3冊, 1989—1990, 大然出版社)は中国の南北朝を背景とし、人間、神祇、魔神が激しく戦う英雄伝説を描くことにより、生命と神・佛への疑いを示す。この作品は高永の台湾少女漫画界の地位を定め、台湾少女漫画中の最高傑作だと言える。1993年12月に韓国の『COLOR』に連載され、1994年5月に日本のMOVIC(『ムービック』)に日本版が発行された。

『星座刑事』(全12冊, 1999—2000, 長鴻出版社)は星占いで人性を分析することができる刑事の「霍夫・林」(中国とイギリスの混血児)と彼のパートナーの「官明彦」が重大な国際犯罪を検挙することを物語りの始めとし、中国の文化大革命から現在にわたる感動的な愛情物語を描くものである。12冊の長篇作品であるが、プロットの山場が多く、最後まで目の離せない傑作と言えよう。

(三) 張静美

1961年に生まれた張静美は努力家と言える。1980年の「小咪漫画新人賞」に出世してから、全ての作品は高いレベルを維持し、思いやりなどの人間性に富む題材は読者を魅了する。

『可家少爺』(全4冊, 1991—1992, 大然出版社)は中国の元朝で、「反元復明」の責務を負っている女主人公の「可三」が敵対する相手の「呉銘」と恋に落ちる物語である。『奇夢神話』(全3冊, 1991—1992, 大然出版社)は空間を越え、真理を求めたい少女の「藍星」の奇遇を主軸とする「異世界」の物語であり、作品の中に人間への関心がよく見え、読者を感動させる佳作である。『青春小鳥』(1—6, 連載中, 長鴻出版社)は彼女の新作、ただいま連載中である。この作品は清新・人性化の風格で人間に変身することができる妖精の小鳥—「青春」を主人公に、人間と妖精界の愛情を描写するものである。

(四) 李崇萍

現在の台湾少女漫画界で大きな底力がある人気漫画家の李崇萍の代表作—『摇滚狂潮』(1—8, 連載中)はアジア

67 日下翠氏の『漫画学のスズメ』(2000, 白帝社)頁279を参照。

一のバンドを創るという夢を持つ「藍珥婷」を中心とし、女主人公の仕事に対する情熱、及び彼女とバンドスタッフの間の友情、理想、愛情などの絆を描くものである。台湾のキャリア・ウーマンが理想を抱え、バンド活動を通じて、目標を求める題材で注目される。

(五) 木 笛

『貝比日記』(全5冊, 1993-1997, 東立出版社)は少女「貝比」の小学時代から高校時代までの成長物語であり、『愛上300歳の女孩』(全3冊, 1998-1999, 東立出版社)は台湾人気作家の呉淡如のベストセラーから改編した三世にわたる人間と鬼の愛情物語である。二つの作品はともにユニークな小品文らしい雰囲気充滿され、後味がいいものである。

(六) 侯采佑

侯采佑は創作が少なく、構図のテクニックも上手ではないが、作品ごとに歴史背景を深く研究し、それがストーリーの中に巧みに組み込まれ、うまく表現されている。独特な中国画画風で「和蕃政策」下の漢朝を物語の背景とする『細疆曲』(全2冊, 1996, 東立出版社)と『断腕公主』(全3冊, 2000, 東立出版社)は男主人公「奉沕陵」と女主人公「亀茲国の王女「文姫」の感情をうまく映し出している「武俠愛情」という類型のストーリーである。

(七) 王宜文

『烽火情縁』(全4冊, 1993-1996, 東立出版社)は18世紀末期の動乱のフランスを舞台とし、「フランス革命」下、復讐の責務を負っている女主人公の「赫芮葉」が男装して、敵対する「魯吉諾家族」に入り、結局「魯吉諾家族」の息子の「黒爾」と恋に落ちる物語である。このような類似の題材は日本漫画にもよく見受けられるが、王宜文は外国の歴史、服装などの考証に心を込めていることがうかがえ、絵画のテクニックも素晴らしいと言える。さらに完璧なまでの人物造形は読者を引きつけるので、台湾少女漫画の代表的な作家の名に恥じない。

(八) 頼 安

人気漫画家の頼安は学校で西洋画を習っているというが、絵は華麗な少女漫画タイプ。連載中の『恋影天使』(1-7, 連載中, 東立出版社)は撮影が大好きな撮影工作室の助手「丁家羽」と撮影工作室の持ち主「楊昭」の愛情物語であり、生き生きとした台詞と優美な線で台湾少女の夢と仕事に対する情熱を描き、人気を集めている。

(九) 林欣穎

美人漫画家である林欣穎はその漫画作品と本人が同じぐらい人気がある。連載中の『初恋 MALISA』(1-9, 連載中, 東立出版社)は短篇の合集であり、様々な魅力的な女主人公を通し、現代台湾少女の多様な愛情観を描写するものである。生活化の台詞、多元化の新世代の愛情物語で新世代の少女の気持ちをとても伝えられる。

(十) 伊 歡

伊歡の作品はすべて衝撃性、歴史性、動作性、叙事性ともに優れているので、台湾少女漫画中のトップと言えよう。『宣和恋』(全5冊, 1996-1997, 大然出版社)は中国北宋徽宗宣和時代、武將一劉甫偉と承文堂書局の娘一緑扣との愛情物語、『碧海精靈』(全9冊, 1997-2000, 大然出版社)は中国明朝時代、海賊の娘一審海兒と海賊を平定する官吏一邵至洵との愛情物語である。

(十一) 林玉琴 (林小呆)

動乱の世界で大理、突蛮、大唐の三つの国が残された。いつも鬼のマスクをかぶっているため、「戦鬼」と呼ばれる大理の皇太子の「努爾罕克」は造船技術を得るために、大唐皇帝の娘の「南苑公主」を嫁にもらうことを求めるが、「南苑公主」は婚礼を行う前に逃げた……というようなプロットの『虚幻彼方』(1-6, 連載中, 大然出版社)はただいま連載中。この作品は線が優雅、人物造形が耽美、リズムが明快なので、人気のある作品である。

(十二) 曉 君

同じ魔法を主題とする『魔法600秒』(全5冊, 1995-1997, 大然出版社)と『魔法快通321』(全7冊, 1997-1998, 大然出版社)は男・女の主人公が魔法を使うことで学園生活が面白くなった。それ以外に、作者は「魔法界の人の視点で人間の心(例え嫉妬、無情、利己的など)を映す」というプロットを通して、生命の真理とは何かを読者に大きく問いかける。

『隨風起飛』(全3冊, 2000, 大然出版社)はダンスを主題とし、ダンスに熱中する藝術学院学生の「韋旭晴」と原住民出身の優秀なダンサー「風彦安」の愛情物語である。プロットがきちんとして、無駄がない。そして、台湾の有名なダンス団体「雲門舞集」の紹介も作品の中にはさみ、読みやすい佳作だと言えよう。

(十三) 劉曉蓓

『微熱蜜語149°C』(全4冊, 1997-1998, 大然出版社)は一生懸命に美味しいケーキを作りたいケーキ屋さんの娘一林瑋琪の姿を描写するものである。作品の中にクッキー、ケーキなどの作り方も書いてあり、そのため読みごたえを増している。

第三節 まとめ

以上、台湾少女漫画の代表的な漫画家及びその重要な作品を紹介した。13名の少女漫画の中の、高永、張静美、游素蘭の三人以外で、人気がある漫画家は大然出版社と東立出版社に集中しているということが分かった。このような「漫画家と出版社との関係がとても密接」という状況は文学界とかなり違う。この問題について、黄雅芳はその「台湾漫画文化工業初探」という論文の中に、「台湾本土漫画の共

通な問題は“脚本の創作”ということである。台湾本土の漫画家は絵画のテクニックをとっても熱心に追求するが、脚本を創作することはなかなか難しい。よって、東立出版社の范萬楠社長は最初に脚本創作グループを設立し、漫画新人を指導する。]⁶⁸と指摘した。つまり、出版社が漫画家と契約を定め、専業の編集者が新人を指導するという人材養成の形が、台湾少女漫画界に大きな影響を及ぼしたと言えよう。

また、各少女漫画家の重要な作品の出版時間を見てから、台湾少女漫画界の先輩である高永、張静美、游素蘭の作品以外、殆どの漫画家の「成熟作」と言える作品はすべてこの5年の間で創作されたものということが分かった。このようなことは二つの意味があると思う。一つは新世代の台湾少女漫画の歴史はすでに20年にわたっているが、多くの成熟した作品は最近の5年間に出現している。一方、わずか20年の時間で、このような多くの成熟作品が現われたことは、台湾漫画は無限の可能性があると見えよう。

第五章 台湾少女漫画の内容

台湾少女漫画の源流、関するメディア、代表的な作家とその重要な作品を紹介してから、本章は台湾少女漫画の内容について分析していきたいと思う。

前述のように、台湾と日本少女漫画は淵源が深く、台湾少女漫画家は学習の過程において、多くは日本漫画家の作品を手本としている。こういった状況の下で台湾の少女漫画家たちはどのような作品を創作したのかという問題について、東立出版社の林琨哲編集長は「台湾の少女漫画の内容について、基本的に日本と比べ、大きな違いはないと思う。これは台湾と日本の生活様式がより近いものだからである。台湾の若者たちは日本の流行を敏感にキャッチし、その思想や観念は日本により近い。よって、殆どの20代、30代の台湾少女漫画家の創作する作品は取材、及び作品の中に表現される内容について日本漫画と大差はないと考えられる。]⁶⁹と指摘した。

それでは、台湾少女漫画の作品中に表現される内容は本当に日本漫画と大きな差はないのであろうか、さらには、台湾少女漫画がどのような内容で創作されたのかという問題について、本章では二つの小節に分けて、検討してみる。

第一節で、新世代の台湾少女漫画を分類することによって、どのような内容が創作されたかを検討したいと思う。第二節で、内容を分類することによって、台湾少女漫画の特色を取り上げたい。これらの分析は台湾少女漫画の内容

を明らかにすることに役に立つと考える。

第一節 台湾少女漫画の内容についての題材分野

さて、第三章に叙述した漫画家43人の119部の作品を対象としながら、表5-1のような題材分野で台湾少女漫画を簡単に分類してみようと思う。

(一) 台湾少女漫画の内容についての分類

表5-1 台湾少女漫画の題材分野

番号	時代区分	区域区分	類型	作品	内容説明
1	古代	中国	1-1 才子佳人	紫釵記, 珍珠怨, 嫁情曲, 難纏俏姑娘	琴, 棋, 書, 画などの才能に精通する才子と佳人のラブストーリーである。プロットは中国の戯曲文学と似ている。
			1-2 武俠愛情	戲水蝶衣, 斷腕公主, 細疆曲, 可家少爺, 虛幻彼方, 宣和恋, 碧海精靈	実際の歴史を物語の舞台とする武芸にたけた男・女の主人公の愛情物語。
			1-3 浪漫神話	幻玉龍女, 愛凡	中国の古代を背景とし、中国の神と人間の恋を描くもの。
			1-4 「聊齋」物語	玉狐, 青春小鳥	狐, 鳥, 亀などの動物が人間に変身し、人間と恋に落ちるとい中国の古典文学名著「聊齋志異」風のプロット。
			1-5 英雄伝奇	梵天變	伝統的な少女漫画の恋愛物語から抜け出し、少女漫画の画風で人間, 神祇, 魔神らが激しく戦う英雄伝説を描くもの。
		欧米	1-6 宮廷恋曲	烽火情縁, 心之罪, 薔薇豪情	19世紀始めの戦時下の欧州各国を舞台とし、「欧州宮廷」式の画風で波乱に満ちた恋を描写するもの。

2	現代	台湾	2-1 青春学園	咖啡不加糖, 貝比日記, 純愛手記, 男様, 紅粉綠柚子, 一輩子守着妳, 月光, 小綠, 愛是億萬伏特, 伊甸之月, 男性禁止步, 恋人迷宮, 玻璃鞋之約, 魔法快遞321, 魔法600秒, 奇夢狂想曲	台湾の中学生・高校生の学校生活における友情や愛情に対する憧れを描くもの。
			2-2 新新女性	恋影天使, 搖滾狂潮, 賭国風雲錄, 漫画情人夢, 微熱蜜語149°C, 隨風起飛	台湾のキャリア・ウーマンの仕事に対する情熱, 仕事の場での同じ夢と理想を持つ相手との恋愛過程を描写するもの。
			2-3 暴力恐怖	夏日的惡作劇, 天使愛魔鬼, 木乃伊之歌	学園や職場を物語の背景とし、人性の愛, 怨み, 嫉妬を描写するサスペンス。

68 黄雅芳の「台湾漫画文化工業初探」(1997, 台湾国立師範大学・社会教育学系研究所修士論文) 頁84を参考とする。

69 2000年10月17日に報告者はe-mailで東立出版社の林琨哲編集長にインタビューしたもの。

			2-4 異国情縁	曼哈頓物語, 鋼鐵天使	台湾女性の海外で起こった恋を描くもの。
		欧 米	2-5 異国題材	鏡子的另一辺, 恋愛的季節, 銀色奇蹟, 星座刑事	台湾以外のものを題材とするもの。
			2-6 実在人間	真情黛安娜	実在の人間, 本当の出来事から改編したもの。

3	未来	太陽系 惑星	3-1 SF 愛情	超新星, 悲傷 茱麗葉, 惑星 恋人, 新世紀 蒙娜麗莎, 郵 購新娘, 銀河 彼端	科学技術の進んだ未来世界では人間の愛情はどうなるかという題材で漫画家たちの想像力が100%発揮される……。
---	----	-----------	--------------	---	---

4	超時空	古代の中国 VS 現代の台湾	4-1 隔世情縁	愛上300歳の 女孩, 火王, 傾 国怨伶, 天使 迷夢, 天魔變 奏曲, 落花	百年, 千年でもついに叶うことのない恋といったプロット……。
		異世界 VS 現代の台湾	4-2 空間神話	奇夢神話	空間を越え, 真理を求めたい少女の奇遇。

(二) 分類の説明

古代

1-1 才子佳人

本類型の特徴は琴, 棋, 書, 画などの才能に精通する才子と佳人のラブストーリーである。中国の戯曲文学と似た内容は審査時代前の漫画家, 陳定國, 錢夢龍の作品の特徴と共通しているが, 新世代の少女漫画家は単に民話や古典文学を材料としながら描くのではなく, 史実に基づきながら, 自らプロットを創作することもある。呂相儒の『嫁情曲』は中国三国時代の周瑜と二喬の故事を描き, この類型中の佳作である。

1-2 武俠愛情

「武俠愛情」という類型は意外に作品数が多く, 多くは5冊以上の長篇漫画である。このグループの作品の筋立ては実際の歴史を物語の舞台とし, 武芸に長けた男と女の主人公が国家と家族のために復讐する義務を負っているため, 敵対する相手と恋に落ちて, 互いに愛することができないというものである。このようなプロットは最も強く読者をひきつける。そのため, 「武俠愛情」に属する台湾少女漫画は衝撃性, 歴史性, 動作性, 叙事性のいずれも優れていると言える。

伊敏の『宣和恋』(中国北宋徽宗宣和時代, 武将一劉甫偉と承文堂書局の娘一緑扣との愛情物語), 『碧海精靈』(中国明朝時代, 海賊の娘一寧海兒と海賊を平定する官吏一邵至洵との愛情物語), 侯采佑の『細疆曲』(中国漢朝時代, 龜茲国の王女一文姫と師匠が殺され, 復讐する漢朝人一奉沕陵との愛情物語), 『斷腕公主』(『細疆曲』のパートII) 及び林玉琴の『虛幻彼方』(中国唐朝時代, 唐朝の王女一南苑と大理国の王子一努爾罕克との愛情物語) は

この題材中の佳作だと思う。

1-3 浪漫神話

この類型の物語は中国の古代を背景とし, 中国の神と人間の恋を描いているものであり, 作品数が少ない。

1-4 「聊齋」物語

狐, 鳥, 亀などの動物が人間に変身し, 人間と恋に落ちるとい中国の古典文学名著「聊齋志異」風のプロットが本類型の特徴である。なかでも, 『青春小鳥』は人気漫画家張静美の新作で, ただいま連載中である。その清新・人性化の作風はこの「聊齋志異」風の作品に新しい局面を開いたと言える。

1-5 英雄伝奇

この類型の作品としては唯一, 高永の『梵天變』があげられる。この作品は少女漫画の画風で人間, 神祇, 魔神らが激しく戦う英雄伝説を描いたものであるが, その内容は伝統的な少女漫画の恋愛物とは一線を画しているという点で注目される。『梵天變』は高永の台湾少女漫画界の地位を固めたもので, 少女漫画中の最高傑作と言える。

1-6 宮廷恋曲

この類型の漫画は19世紀始めの戦時下の欧州各国を舞台とし, 「欧州宮廷」式の画風で波乱に満ちた恋を描写する。漫画家は外国の歴史, 服装などの考証に心を配り, 絵画のテクニックも素晴らしいと言える。王宜文の『烽火情縁』は18世紀末期の動乱のフランスを舞台とする愛情物語で, この類型中の佳作である。

現代

2-1 青春学園

台湾少女漫画家が最もよく使う題材は「青春学園」である。このような題材は20年以來, ずっと台湾少女漫画の主流だと言える。漫画家たちは学園生活という熟知の題材で漫画家の道に向かって, 例えば彭雪芬の『咖啡不加糖』, 趙誠瑞の『奇夢狂想曲』, 木笛の『貝比日記』, 仙貝の『紅粉綠柚子』, 余承蓉の『伊甸之月』などの多くの漫画家の処女作はこの類型に属するものである。

学園生活は漫画家たちのだれもが経験したことがあることであり, このような身近な題材を創作すれば, 漫画家たちはプロットと人物の設定に半分の労力で倍の成果を上げられる。しかし, 同時に学園漫画はレベルの差がかなり大きく, それが人気作品になるかどうかの第一の条件はやはり漫画家たちが伝統的な学園漫画の枠組みに新たな風穴を開けられる否かにあるといえる。例えば曉君の『魔法快遞 321』と『魔法600秒』は男女の主人公に魔法を使わせたことで, 若い人たちに無限な想像空間を与えることになった。また, 沈蓮芳の『一輩子守着妳』は, 少年・少女たちの同性愛問題を取り上げ, 読者に強

い印象を与えた。

2-2 新新女性

台湾のキャリア・ウーマンが仕事に対する情熱、仕事の中で同じ夢と理想を持つ相手と恋愛する過程を描写する「新新女性」という類型は、女性の様々な仕事の日常という観点から、とても多様な表現ができる題材だと思う。頼安の『恋影天使』は撮影が大好きな撮影工作室の助手―「丁家羽」、李崇萍の『摇滚狂潮』はアジアのバンドを作るという夢を持つマネージャー―「藍亜婷」、劉曉蓓の『微熱蜜語149°C』は一生懸命に美味しいケーキを作ろうとするケーキ屋さんの娘―「林瑋琪」、曉君の『隨風起飛』はダンスに夢中になる芸術学院学生の「韋旭晴」などの女性主人公の仕事に対する情熱に着目し、その専門の知識（撮影、バンド、ケーキ作り、ダンスなど）も紹介され、注目すべき作品だと思う。以上の作品はすべて今の人気少女漫画作品であるので、このような題材はまだまだ大きな発揮空間があり、すばらしい作品の登場を期待できると言えよう。

2-3 暴力恐怖

学園や職場を物語の背景とし、人間の愛、怨み、嫉妬を描写するサスペンスである。台湾ではこのような作品は少ないし、「暴力恐怖」というような題材は少女漫画のマニア達には受け入れられない内容だったらしく、注目されなかった。

2-4 異国情縁

台湾女性の海外で起こった恋を描く。漫画にしやすい発揮しやすい題材と言えるが、作品の数はまだ少ない分野である。

2-5 異国題材

これは台湾以外のものを題材とするものである。高永の『恋愛的季節』はアメリカ西部の原住民、咎井淳の『鏡子的另一辺』はアメリカの中・下層階級の人々の愛情物語を描写し、林欣穎の『銀色奇蹟』はサンタに夢を託す少女の出来事である。そして、注目しなければならない作品は高永の『星座刑事』であろう。この作品は星占いで人間の性格を分析する刑事の英雄伝奇であり、山場が豊富なので、大変面白い作品になっている。

2-6 実在人間

実在の人間、本当の出来事から改編したものである。例えば、高永の『真情黛安娜』はイギリス元皇太子妃ダイアナの一生を題材とした愛情物語である。

未来

3-1

科学技術の進んだ未来世界では人間の愛情はどうなるのかということの問題にしたもので漫画家たちの想像が100%発揮される。このような「SF愛情」は台湾少女漫

画家の好む題材だと言え、人気漫画家の高永、林欣穎、伊敏などもこのような題材の創作を試したことがある。しかし、同じ題材の作品は日本少女漫画の中にもよく見られ、更に台湾漫画家のこのような「SF愛情」題材の創作は大体短編のほうが多いので、注目されなかった。

超時空

4-1 隔世情縁

台湾超人気少女漫画家である游素蘭の作品にはここであげられる「超時空」を題材にしたものが多く、例えば長篇の『傾国怨伶』、『火王』があげられる。時空間の変貌自在、多次元の愛情、さらに百年、千年でもついに叶うことのない恋といったプロットは少女漫画マニアの心を引きつける。游素蘭の作品以外、林玉琴の『天魔変奏曲』、木笛の『愛上300歳の女孩』^{こいにおちる しょうじょ}、頼安の『落花』などの作品も人気がある。特に『愛上300歳の女孩』は台湾人気作家の呉淡如のベストセラーを改編したもので、後味がいい作品である。

4-2 空間神話

「異世界」を物語の背景とする台湾少女漫画はただ張静美の『奇夢神話』しかないが、この作品は空間を越え、真理を求めようとする少女の奇遇を主軸としながら、物語の中に人間への強い関心が垣間見え、大変に読者を感動させる佳作と言える。

第二節 台湾少女漫画の内容についての特色

第一節の題材分野で少女漫画を分類した。次では、漫画の内容をめぐって、いくつかの台湾少女漫画についての特色を取り上げたい。

(一) 台湾の現実生活を題材の背景とし、台湾少女の文化の指標

題材の背景が現在の台湾となっている作品には、学園漫画、職場漫画はもちろんのこと、その中に、台湾人が知っている場所、人物、物事などがよく登場する。主人公たちの考え方、付き合い方、話し方……なども全部台湾式である。よって、台湾でいま流行っているものは何か、流行語は何かという問題は少女漫画を読めばすぐわかる。特に頼安、李崇萍、林欣穎の作品は最も現代感に富み、これらの作家の作品は台湾少女の文化の指標だと言えよう。

(二) 台詞の中に台湾の俗語がよく見られる

台湾少女漫画の中には、もう一つの面白い現象がある。それは作品の台詞についてで、物語の背景が古代であろうと、現代・未来であろうと、常に台湾の俗語（注意、中国語ではない）が使われるということである。例えば、

1. 頼安の『恋影天使』の「免歹勢啦！」（「遠慮しないで」、「恥ずかしくない」などの意味）⁷⁰
2. 頼安の『恋影天使』の「一兼二顧，摸蛤仔兼洗褲」

(「一挙両得」の意味)⁷¹

3. 林欣穎の『郵購新娘』の「没魚蝦也好」(「間に合わせ」の意味)⁷²

4. 林玉琴の古代の作品—『虚幻彼方』の「歹勢啞……」(「ごめんね……」の意味)⁷³

特に頼安の『恋影天使』は台詞の1/5までが台湾俗語で、その他、楊邵倫、仙貝、彭雪芬、游素蘭、劉曉蓓などの漫画家も台詞に台湾俗語を使う。

(三) 保守的な性思想

台湾少女漫画の作品の中に古代の物語はもちろんのこと、現代の物語の中に現われる女性の性思想は殆ど保守的である。

時代に従って、台湾の小説と映画の中に女性のヌードと男・女の肢体のタッチの画面はよく見られ、女性の開放的な性思想についての内容もよく描写されている。また、少女漫画の草分けの日本の少女漫画の中で、イタリアの週刊誌「パノラマ」の指摘のような「墮落した金髪の天使。世話好きで淫乱な看護婦。無邪気ながら背徳的な女子高校生。……とにかく、最も露骨で過激なのは少女マンガだ……」⁷⁴ 開放的な性思想もよく呈されている。このような潮流の中で、新世代の台湾少女漫画は20年以来終始一貫、女主人公の露出の画面もないし、口付けのシーンさえも少ない。たとえ主人公が性的話題を提起しても、とても婉曲に描写されている。台湾少女漫画はまるで台湾少女の聖域で、漫画の中に少女の夢と愛を満載し、少しの汚れも許されないであろう。

(四) 仕事に情熱を持つ女主人公は台湾少女たちの理想の女性像

現在の人気漫画家の重要な作品は殆ど「新新女性」、「隔世情縁」、「武俠愛情」の類型に集中し、この中の「新新女性」という類型だけは現代の物語である。可愛いけれども平凡な女主人公が仕事に対する情熱を持ち、一生懸命努力したため、やっと格好よく、才能抜群の男主人公の目をひきつけるというプロットはいつのまにか「新新女性」の物語の定番になったようである。それにもかかわらず、この類型の作品はいつも大人気。その原因を追求すると、台湾女性が結婚、妊娠、赤ちゃんが生まれても殆ど仕事を続けることと関係があるのであろう。台湾女性は漫画の世界で、平凡ではない恋愛と事業の成功に夢を抱いていると言えよう。

(五) 歴史的題材は台湾少女漫画家の最大の財産

台湾少女漫画の題材分野のうち、「才子佳人」、「武俠愛情」、「浪漫神話」、「聊齋物語」、「英雄伝奇」及び「隔世情縁」などはすべて古代の物語である。物語の背景や服装の考証などは史実に基づかねばならないという制限はあるが、尽きることのないこれらの歴史的題材は台湾少女漫画家の最大の財産と言える。

第三節 まとめ

以上、台湾少女漫画の内容について分析してみた。多様な類型の作品が台湾少女漫画の世界を豊かにしたことは言うまでもないし、台湾なりの特色もいくつか見られる。しかし、作品全体を眺めてみると、中国の古典文学あるいは中国の歴史題材を援用した作品は多いのに、台湾本土の歴史、文化、郷土に基づく題材を扱った作品がまだ少ないことに気づき、残念に思う。

顔艾琳はその著作の『漫画鼻子』の中で、次のような指摘をした。

「台湾本土漫画の問題はたくさんある。1965年代の「審査制度」以後、多量の日本漫画がコピーされ、1980年代までの20年間、台湾漫画市場は日本漫画の天下になったという原因以外に、台湾漫画家は長い間に漫画のテクニックしか気を使わず、自分自身に似合う適当な発揮主題をなかなか見つけられなかったことも主な原因である。……およそ台湾の歴史、人文、民間風俗、伝説、民間芸術などはすべて素材とすることができるではないか。……もしも漫画家の編劇能力がよくないというのであれば、ストーリーの部分ではできるだけ文学界の専門家に任せるほうがいい。」⁷⁵

確かに、以上について考えると、評論家たちが「台湾少女漫画は日本漫画と関係があるか、異なる所があるか」という問題に拘わることより、台湾少女漫画家たちに使命を与え、台湾本土の歴史、文化、郷土に関する作品を創作することを励ますほうが大切だと思う。台湾少女漫画が今までの枠、特に日本漫画に受けた影響の枠から抜け出すことは無理ではない。そのポイントはすでに持っているテクニックで自らの文化に関する作品を創作するという点だけだと思う。

70 頼安の『恋影天使』(台北・東立出版社、2000年)第3冊、頁77を参照。

71 頼安の『恋影天使』(台北・東立出版社、2000年)第3冊、頁87を参照。

72 林欣穎の『郵購新娘』(台北・東立出版社、1996)頁4を参照。

73 林玉琴の『虚幻彼方』(台北・東立出版社、1999)第1冊頁30を参照。

74 フランチェスコ・ブランドーニの「ファースト・インパクト(イタリアの場合)」(『日本漫画が世界ですごい』に収録、1998、東京・たちばな出版)頁30-31を参照。『日本漫画が世界ですごい』に収録、1998、東京・たちばな出版。

75 顔艾琳の『漫画鼻子』(1998、台北・探索文化)頁124-125を参照。

第六章 終わりに

(一) 台湾少女漫画の研究所感

漫画内容をめぐって。

1. 台湾少女漫画は台湾の現実生活を題材の背景とし、台湾少女の文化の指標と言える。2. 台湾少女漫画の台詞の中に台湾の俗語がよく見られる。3. 台湾少女漫画の作品の中に古代の物語はもちろんのこと、現代の物語の中に現われる女性の性思想は殆ど保守的である。4. 仕事に情熱を持つ台湾少女漫画の女主人公は台湾少女たちの理想の女性像。5. 歴史的題材は台湾少女漫画家の最大の財産などのいくつかの特色が取り上げられた。

20年以来、とても多様な類型の作品が台湾少女漫画の世界を豊かにすることはすばらしいが、作品全体を眺めてみると、中国の古典文学あるいは中国の歴史題材を援用した作品は多いのに、台湾本土の歴史、文化、郷土に基づく題材を扱った作品がまだ少ないことに気づき、残念に思う。台湾少女漫画は今までの枠、更に日本漫画に受けた影響の枠から抜け出すポイントはすでに持っているテクニックで自らの文化に関する作品を創作することができるかによって決められる。

(二) これからの研究課題

本論文の題目は「台湾少女漫画白書」であるが、台湾少女漫画について、不備な点、また研究する必要がある課題はまだあると気付いた。それは台湾少女漫画家と日本少女漫画家との比較と台湾少女漫画年表の製作である。

1. 台湾少女漫画家と日本少女漫画家との比較

前述のように、台湾少女漫画家の好む漫画家は日本漫画家が99%を占め、台湾少女漫画家の画風も日本少女漫画家の影が見える。日本漫画と淵源が深い台湾漫画は画風、人物、内容、主題、イデオロギーなどについて、日本漫画との違いを比較することができれば、おもしろい課題だと思ふ。

2. 台湾少女漫画年表の製作

論文に取り掛かる前に、閲読の過程において、少女漫画家の作品とその創作される時間、背景を調べたいが、台湾少女漫画に関する年表がないので、不便だと思った。台湾漫画年表については、洪徳麟氏が既に製作したが、「台湾少女漫画の年表」の製作についても期待される。

(三) 台湾少女漫画の未来

日下翠氏は『漫画学のススメ』第Ⅲ部—大陸・香港・台湾「新漫画」事情のまとめで、次のように指摘する。

「……（大陸・香港・台湾漫画を）ざっとながめただけで

あるが、大体の傾向はうかがえたかと思う。これからももっと発展してすぐれた作品を生み出し、日本漫画に刺激を与えてほしいと心から希望している。日本漫画はそれらの作品から受けた刺激をテコに、更にまた自分たちの漫画文化を豊かで広がりのあるものにしてゆくだらう。そう、漫画に限らない。日本文化は昔から、ずっとそうして外国文化の刺激を利用しつつ、発展してきたのだから。』⁷⁶

同じ気持ちで本論文の結論に移りたいと思う。

台湾少女漫画が日本漫画からどのような影響を受けたのかということは大切な問題であるが、もっと大事なことはやはり影響を受けてのちの、「受けた刺激をテコに、更にまた自分たちの漫画文化を豊かで広がりのあるものにしてゆく」ということである。

よって、台湾少女漫画はわずか20年間で、今のような成果が見られるようにまで発展したということは慰めに値するが、本論文の第五章で説明した「いままでの台湾少女漫画の中に、台湾本土の歴史、文化、郷土に関する題材がない」ということは台湾少女漫画家に対して、やはり最も大切な問題だと考える。台湾漫画は既に新興の文化と認知されているのであるから、少女漫画家たちも文化人である使命感を持ち、自らの文化に関する作品を創作することに心を込めなければならないと思う。

「いまの台湾少女の重要な漫画家は大体20代であり、最も年長の漫画家も40歳に満たない。」⁷⁷さらに、新しい人材もどんどん登場している。将来、台湾人の心を動かす本土の作品が現われることは疑いない。台湾漫画の未来に、私は大きな期待を抱いている。

76 日下翠氏の『漫画学のススメ』（2000年、白帝社）頁284-287を参照する。

77 2000年10月13日に電話とe-mailで東立出版社の林琨哲編集長にインタビューしたものの。